

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 45

2011年9月20日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。



□ I J R C 創立 20 周年特別寄稿 -6-
ー静岡大学イノベーション共同研究センター [IJRC]
(旧：地域共同研究センター)は2011年4月に20周年を迎えましたー

【20周年記念式典】2011年11月25日（金）13：30～

「産学官連携への期待」
大学での研究は世間のニーズを余り意識しない基盤的なものと応用的なものとのバランスよく行われていることが重要と考えているが、外部資金を導入しないと研究が出来ない時代となり、多くが応用的なものへと変化している。

基盤的研究活動の拠り所となっている科学研究費の獲得状況に大きな変化は無く、その活動は困難になる一方である。日本も早く産学連携のお手本としたアメリカのように、外部資金による間接経費や特許収入が基盤的研究へのサポートなども可能となる規模へと拡大していくことを願っている。まだまだ先の話のような気もするが・・・

なお、アメリカでの状況は、上山隆大著「アカデミック・キャピタリズムを超えて」（NTT出版）で知ることが出来る。

（記：第3代センター長 [平成8～11年度] 石井 仁）

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「産学官マッチング会」事前アンケートご協力をお願い
2. 「イノベーション・ジャパン2011ー大学見本市」に出展します
3. 「静岡大学食品・生物産業創出拠点 第27回研究会」ご案内
4. 「ベルリン光産業シンポジウム」ご案内
5. 「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション
人材育成教育フォーラム」ご案内
6. 「平成23年度 防災・日本再生シンポジウム」ご案内
7. 静岡大学「第10回アントレプレナー講演会」ご案内

※問合先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

-
1. 「産学官マッチング会 in 浜松」
「Technology Hunting in 沼津」
開催のための事前アンケートご協力をお願い

地域産業界の皆様との技術交流を促進し、大学等の研究成果を普及する場として「産学官マッチング会」を下記のように浜松と沼津で開催します。本会は、従来行われていた「大学等が選んだ研究成果をご紹介する場」から一歩進んで、「地域産業界の皆様のご要望にあわせた研究成果をご紹介する場」として企画しています。

現在、企業の皆様にはアンケートのご協力をお願いしております。本アンケートは大学等から提案する講演候補を参考に、皆様にご興味をもたれている技術テーマや普段お困りの課題についてお教えいただくものです。あわせて、大学等へのご要望をお教えください。お教えください

たテーマについて、大学や関係機関から適任の研究者を選定して、講演・説明を行います。皆様のご協力をお願いいたします。

「産学官マッチング会 in 浜松」

開催日時：2011年11月4日 10:00~14:00

開催場所：オークラアクトシティ浜松 4F 平安の間

「Technology Hunting in 沼津」

開催日時：2011年11月10日 10:00~15:00

開催場所：アンジェ・ヴィラージュ ブケ東海 1階フェニーチェホール

■事前アンケートは以下のURLよりダウンロード頂くようお願いします。
<http://stto.jp/index/matching2011pre.html>

問合先 静岡大学知的財産本部 伊藤 TEL 053-478-1718
E-mail match2011@cjr.shizuoka.ac.jp

2. 「イノベーション・ジャパン2011-大学見本市」に出展します ～併催：平成23年度産学官連携推進会議～

ポスター展示日：2011年9月21日（水）～9月22日（木）

会場：東京国際フォーラム

<新技術発表会>

- 「ステレオカメラを用いて遠距離で高精度に3次元座標を計測」
工学部 橋本岳 准教授
9/21（水）12:15~12:30
- 「『硬さ』と『柔らかさ』を非接触非破壊で測定する計測器」
工学部 犬塚博 教授
9/21（水）12:00~12:15
- 「がんの早期発見・治療・QOLを革新する新規医用材料開発」
創造科学技術大学院 山下光司 特任教授
9/22（木）15:45~16:00
- 「キッチン由来産業糖質基材を活用した新食品・新素材の開発」
農学部 尾形慎 特任助教
9/21（水）16:05~16:20

<会場展示>

- 「超臨界流体を用いる炭素繊維強化プラスチックのリサイクル」
工学部 岡島いつみ 助教
- 「カプセル型分子素材を用いた有害イオンの新除去技術」
機器分析センター 近藤満 准教授
- 「ナノオーダーの座標計測が可能な超高感度タッチトリガープローブ」
工学部 大岩孝彰 教授
- 「非接触回転によりクリーンな送液が可能なベアリングレスポンプ」
工学部 朝間淳一 准教授
- 「植物病害に有効な放射菌を用いた農業資材の開発」
農学部 徳山真治 准教授
- 「キッチン由来産業糖質基材を活用した新食品・新素材の開発」
農学部 尾形慎 特任助教

詳細/申込 <http://www.innovation-japan.jp/>

問合先 静岡大学知的財産本部 TEL 053-478-1718、053-478-1710
E-mail invjp11@cjr.shizuoka.ac.jp

3. 「静岡大学食品・生物産業創出拠点 第27回研究会」ご案内
—新規食品製造技術と植物工場の可能性—

日時 2011年9月30日（金）13：30～19：00
会場 東海軒会館
主催 静岡大学食品・生物産業創出拠点
共催 しみず新事業創出研究会、駿河湾地域新事業推進研究会
後援 財団法人 しずおか産業創造機構

内容 <講演>
①「三遠南信の農業と植物工場への期待」13：35～14：45
豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター
統括研究部門 特任教授 三枝 正彦 氏
②「植物工場の可能性と限界」 14：45～15：00
農林水産省 植物工場 実証・展示・研修事業
千葉大学拠点リーダー 千葉大学 准教授 丸尾 達 氏

<企業プレゼン>
①(株) 静岡アグリビジネス研究所 16：15～16：45
『極少量培地栽培によるおいしい静大トマトの生産・販売』
②日清紡ホールディングス(株) 16：45～17：15
『植物工場の取り組みについて』

<懇親会>17:20～19:00

研究会参加費 会員・共催/後援団体会員及び学生…無料
会員外…1,000円
懇親会費 会員(学内・学外共) 1名2,000円
会員外 1名4,000円

問合先 静岡大学食品・生物産業創出拠点 事務局
〒422-8529 静岡市駿河区大谷 8 3 6
E-mail: oshirao@ipc.shizuoka.ac.jp

4. 『ベルリン光産業シンポジウム』ご案内
—ドイツにおける光通信、レーザー、マイクロシステム技術の中心地—

この度、ドイツ・ベルリン光産業使節団の来日に伴い、「ベルリン光産業シンポジウム」をオプテック ベルリン ブランデンブルク協会、ベルリン・パートナー社の主催により開催します。

皆様方には、本シンポジウムを通じ、ベルリンの光産業の実情に触れて頂くとともに、是非、使節団参加企業、研究所、産業支援機関と商談、打合せの場としてご活用ください。

日時 2011年10月3日（月）15：00～18：30
会場 オークラアクトシティホテル浜松 3階「チェルシー」
(浜松市中区板屋町111-2)

プログラム
○講演
「ベルリン・ブランデンブルクにおけるオプティクスとフォトニクス産業の外観—ドイツの首都におけるサイエンスと産業景観」
Dr. ギュンター・トレンクレ
(フェルディナント・ブラウン高周波技術研究所 ディレクター)
○講演
「ベルリンの光通信技術」

Prof. Dr. ハンス=ヨハヒム グラレルト
(フ라운ホーファー通信研究所、ハインリヒヘルツ研究所
ディレクター)

○講演

「ドイツの首都地域における光技術とマイクロシステム技術のための
コンピタンスネットワーク」

Dr. ベルト・ヴァイドナー
(オプテック ベルリン ブランデンブルク協会 (OpTecBB e. V) CEO)

○交流会

※ベルリン光産業使節団参加企業等と個別に商談、打合せを希望される
場合には、参加申込書に希望相手先をご記入ください

【ベルリン光産業使節団】

- ・ Ferdinand-Braun-Institut, Leibniz-Institut fuer
Hochstfrequenztechnik (FBH)
(フェルディナント・ブラウン高周波技術研究所)
- ・ Fraunhofer Institute for Telecommunications, Heinrich Hertz
Institute (フ라운ホーファー通信研究所、ハインリヒヘルツ研究所)
- ・ u2t Photonics AG (u2t フォトニクス社)
- ・ FOC fibre optical components GmbH (FOC社)
- ・ VPIsystems GmbH (VPIシステム社)
- ・ Luceo Technologies GmbH (ルケオ・テクノロジーズ社)
- ・ Spreepatent GmbH (シュプレーパテント社)
- ・ Dr. M. Siebert GmbH (ドクター・M・ジーベルト社)
- ・ Fraunhofer Institute for Reliability and Microintegration
IZM (フ라운ホーファー信頼度・マイクロインテグレーション研究所)
- ・ Optec-Berlin-Brandenburg (OpTecBB) e. V.
(オプテック ベルリン ブランデンブルク協会)
- ・ Berlin Partner GmbH (ベルリン・パートナー社)

参加費 無料

定員 50名

言語 日英同時通訳

主催 オプテック ベルリン ブランデンブルク協会 (OpTecBB e. V)
ベルリン・パートナー社 (Berlin Partner GmbH)

後援 在日ドイツ商工会議所

浜松商工会議所

財団法人浜松地域テクノポリス推進機構

詳細/申込

[http://www.optronics-cluster.jp/whatsnew/index.cgi?mode=view&
noall=55](http://www.optronics-cluster.jp/whatsnew/index.cgi?mode=view&noall=55)

問合せ先 浜松地域テクノポリス推進機構オプトロニクスクラスター本部

TEL 053-489-9111 FAX 053-452-0016

E-mail optronics-cl@hamatech.or.jp

5. 「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション
人材育成教育フォーラム」ご案内
《こどもたちの個性をのばす、浜松のこれからの教育を考える》

幼児期から少年期には、地域の豊かな自然や産業・モノづくりに親し
み、基礎的な学力及び生活力の習得に加え、個々の才能を伸ばせるよう
自由に考え・学ぶことに力を入れた教育環境が大切です。浜松地域から
「夢と志をもって世界に羽ばたく理数系等の人材」を多数輩出できる新
たな教育システムを確立し、世界中から浜松で子どもを育てたいと言わ
れるような魅力的な地域を目指していきたいと考え、これからの浜松の

教育について考えます。

- 日時 2011年10月9日(日) 14:00~16:00
会場 静岡文化芸術大学 278大講義室(浜松市中区中央2-1-1)
プログラム
- 講演「次代の日本を背負う人材の教育
—『価値の創造者』としての自覚を持たせよう」
講師：和田昭允氏(東京大学名誉教授、
横浜市立横浜サイエンスフロンティア
高等学校スーパーアドバイザー)
 - 対談「子どもたちに夢ある人生を」
ゲスト：疋田範子氏
(ピアノ講師：ジャズピアニスト 上原ひろみさんに
ピアノの魅力を最初に教えた恩師)
進行：木村雅和氏
(静岡大学イノベーション共同研究センター長)
 - 活動報告及び提案
「Top Gun Education System の確立をめざして」
発表：木村雅和 人材育成教育部会長

主催 浜松・東三河地域イノベーション戦略推進協議会
後援 浜松市教育委員会
参加費 無料
定員 200人(未成年者も可)
詳細/申込 <http://www.hamatech.or.jp/>
問合せ (財)浜松地域テクノポリス推進機構 TEL 053-489-8111
E-mail mkamiya@hamatech.or.jp

6. 「平成23年度 防災・日本再生シンポジウム」ご案内
～多角的な災害教訓から静岡の防災を考える～

【第1回】静岡会場
日時 2011年10月16日(日) 13:30~16:30
会場 静岡商工会議所会館 5階 ホール
内容 基調講演1
「静岡県内における津波堆積物調査について」
北村晃寿(静岡大学理学部教授、防災総合センター)
基調講演2
「歴史地震に学ぶ大切さ—東日本大震災と関東大震災」
武村雅之(静岡大学防災総合センター客員教授)
パネルディスカッション

【第2回】沼津会場
日時 2011年11月5日(土) 13:30~16:30
会場 沼津市立図書館 4階 視聴覚ホール
基調講演1
「自然を深く知ることは、一歩進んだ防災に繋がる」
野津憲治(静岡大学防災総合センター客員教授)
基調講演2
「津波災害の特徴と防災対策」
原田賢治(静岡大学防災総合センター准教授)
パネルディスカッション

【第3回】浜松会場
日時 2011年11月6日(日) 13:30~16:30

会場 プレスタワー 17階 静岡新聞ホール
基調講演 1
「地震と津波に備える」
林能成 (静岡大学防災総合センター客員准教授)
基調講演 2
「人からはじめる防災・減災」
鈴木清史 (静岡大学防災総合センター客員教授)
パネルディスカッション

主催 国立大学法人静岡大学、一般社団法人国立大学協会
定員 各会場 150名
参加費 無料
詳細/申込 <http://www.shizuoka.ac.jp/event/detail.html?CN=836>
問合せ 静岡大学地域連携協働センター
E-mail ochiiki2@ipc.shizuoka.ac.jp

7. 静岡大学「第10回アントレプレナー講演会」ご案内
『危機をチャンスに!!!』
～危機克服から生まれた「ものづくり」経営
《低公害車CVCCの開発秘話》～

日時 2011年11月10日 (木) 15:00~16:50 (講演会)
17:00~18:00 (交流会)
会場 静岡大学 浜松キャンパス 佐鳴会館
対象 中小・ベンチャー企業経営者・技術者、一般 (学生・社会人等)
主催 静岡大学イノベーション共同研究センター
共催 浜松工業会 静岡大学イノベーション共同研究センター協力会
後援 文部科学省 経済産業省 関東経済産業局
中小企業基盤整備機構 関東支部 静岡県
しずおか産業創造機構 浜松市 浜松商工会議所 浜松地域
テクノポリス推進機構 三菱UFJキャピタル 静岡銀行
清水銀行 静岡県信用金庫協会 浜松信用金庫

<講演者> 本田技研工業株式会社 社友 石津谷 彰 氏
(元 同社 常務取締役)

<内容> 本田技研および本田技研関連企業に於いて研究開発・生産等の分野で経営手腕を発揮された講師が、約35年に亘る在任中に直面した代表的な4つの企業危機を紹介します。そしてそれぞれをどのようなチャレンジで克服してきたか、そのチャレンジはその後の企業発展にどのように役立ったかなどを実体験に基づいて故本田宗一郎氏とのエピソードを交えながら、現在の厳しい経営環境を乗り切るベンチャー企業・中小企業の必須行動について提言します。

参加費 講演会・交流会ともに無料
詳細 <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/center/eventlog/no85.html>
問合せ・事前申込先
静岡大学イノベーション共同研究センター
ベンチャー支援ネットワーク室 TEL 053-478-1713
E-mail antre@cjrr.shizuoka.ac.jp

《 静大ラボ紹介 -30- 》
理学部 化学科 山中正道准教授
<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/~chem/staffs/yamanaka.html>

ゲルという、最も馴染みの深いところでは、寒天、ゼラチン、また、紙おむつ、化粧品やソフトコンタクトレンズ等日常生活に密着した物が思い浮かぶと思います。これまでこのようなゲルのほとんどが高分子ゲルと呼ばれるものでしたが、近年「超分子ゲル」という全く新しい種類のゲルが注目されています。

超分子ゲルとは、低分子化合物（低分子ゲル化剤）が繊維状に自己集合し、さらにこの集合体同士が、3次元的に絡まりあうことで形成されるゲルで、低分子化合物の分子設計により様々な機能の付与が可能です。

山中正道先生の研究室では、独自の分子設計に基づいた、新しい超分子化合物の開発研究に取り組んでいます。山中先生の研究の基盤が有機合成化学であることを活かし、様々な新しい機能発現が期待できる分子を設計、合成し、それら分子の機能評価を行っています。

最新の研究成果では、低分子ゲル化剤として、3つのウレア基を有する化合物の設計、合成に成功しており、このゲル化剤の自己集合によって形成される超分子ゲルは、様々な化学刺激に応答し、可逆的にゾルゲル転移します。このゲル化剤の生命科学、環境科学、材料科学等幅広い分野への応用が期待されます。

【研究分野】超分子化学、有機合成化学

【研究キーワード】超分子ゲル、低分子ゲル化剤、自己集合

（記：知財コーディネーター 吉田典江）

《 みんなのコラム -44- 》

「大学の存在意義」

メディア社会学者の吉見俊哉は、大学を「知を媒介する集合的实践が構造化された場」と再定義し、その生命線（核心）は「有用な知」と緊張関係を保ちつつそれを知の全体の中に位置づけること、すなわち「リベラルな知」の探究にあるとしています（『大学とは何か』岩波新書、2011）。「ネットは情報にあふれているが、情報と情報をつなぎ合わせ、体系化・構造化することはできない。大学とは、人や情報が出会うメディア。出会いを通し、ものを考え、理論や概念の構築を学ぶ場である」と主張します（読売新聞2011.8.26）。

彼の歴史的整理は次のようです。12世紀西欧に誕生した大学は、16世紀の印刷革命の対応に失敗し、17、18世紀に「一度死んだ」のでした。デカルトやロック等の近代知の巨人は大学教授以外から生まれました。19世紀には、国民国家型大学（ベルリン大学1810年）として復活しましたが、この近代型大学を支える「国民国家」の力がいま後退し、ネットメディアの広がりによって大学の価値（存在意義）も揺らいでいる（同上）。私は教育学、特に教育行政学（教育制度）が専門ですが、この大学論には目を開かれました。

ところで、静岡大学は、「有用な知」と緊張関係を保ちながら「出会いを通し、ものを考え、理論や概念の構築を学ぶ場」となっているのでしょうか。大学の地域連携や産学協同においても、この観点からどんな取り組みがいま求められるのでしょうか。じっくりとみなさんと意見交換をしたいと思った次第です。

（記：教育学部長 梅澤 収）

《 編集後記 》

静岡大学は、10月より「文部科学省 情報ひろば」で研究展示を行います。

「文部科学省 情報ひろば」は、文部科学省の今と昔をテーマとした展示・イベント空間で、今年4月からその一角に、全国の国立大学にお

ける研究をわかりやすく紹介するコーナーが設けられました。
静岡大学の展示テーマは、『よりよく食べる・よりよく暮らす』。
静岡県は、農林水産資源に恵まれており、全国でも有数の食品、化学、
バイオ関連産業の集積地域となっています。こうしたエリアを背景に、
地域と連携して活発に展開されている研究活動の中から、今回は、私た
ちの「健康（医療）と食」を支える「ナノバイオ技術」の最先端をご紹
介します。お近くにお越しの際はどうぞお立ち寄りください。
<<http://www.mext.go.jp/joho-hiroba/index.htm>>

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp まで
お願いします。（↑送付の際は○欄に@を入れてください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター（IJRC）
編集：原典子
編集責任者：木村雅和
〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1414
URL <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —
Copyright (c) 2008-2011 Innovation and Joint Research Center,
Shizuoka University. All rights reserved